２０２５年
（令和７年）
10月13日

五位組だより

念仏のこころに生きる生活を

浄土真宗本願寺派
高岡教区　五位組
題字・織田隆夫

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要を終えて

五位組　副組長
福岡町三日市　光源寺　江畠教英

令和７年９月28日、親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年を記念する大法要が高岡市麻生谷の西光寺にて勤修されました。

親鸞聖人は平安時代の末期にあたる１１７３年（承安３年）５月21日、京都の日野の里でご誕生されました。

その頃は公家中心の平安時代から武士が実権を握る鎌倉時代へと移行する時期であり、平氏が政治を主導し、激しい戦乱や台風、大地震、飢饉などの自然災害や疫病が頻発し、人々の間では世の衰えを意味する「末法の世」が訪れたと恐れられる大変動の時代でした。

そのような時代にお生まれになられた親鸞聖人は９歳で出家され、比叡山で20年間に渡り厳しい修行と学問に励まれました。しかしながら悟りを得ることができず、29歳で山を下りられ聖徳太子の夢告を契機に法然聖人に弟子入りをされました。

その後は法然聖人の教えに帰依され恵信尼と結婚、夫婦で念仏の生活を始められました。しかしそのことが既存の仏教勢力から強い反発を受け、朝廷による弾圧が下され、親鸞聖人は越後へ法然聖人は讃岐へと、ともに流罪となりました。

流罪の後は関東（常陸国）へ移られ民衆に念仏の教えを広められました。

そして晩年60歳頃、妻子とともに京都へ帰還され、90歳のご生涯を閉じられるまで「教行信証」の執筆を続けながら同朋や同行に念仏の教えを伝え続けられました。

今回の大法要の際には西光寺の庫裏廊下にて親鸞聖人のご生涯をお伝えする御絵伝を展示し参拝されましたご門徒の皆様にも立教開宗に至る経緯などを学んで頂きました。

また今回はその大法要の後に京都本山よりご門主の御手代（おてがわり）をお迎えし、帰敬式（おかみそり）が執り行われ、90名のご門徒の皆様が法名を授与されました。

この帰敬式の目的は仏・法・僧の三宝に帰依し、阿弥陀仏の教えに従って生きていくことを誓い、仏弟子となることです。これは亡くなってから頂く法名なのではなく、生きている「今」、真宗門徒として、仏の教えを人生の指針とし、確かな生き方を歩むための第一歩となるものであります。

この度の大法要勤修ならびに帰敬式におきまして、高岡教区五位組の関係ご寺族の皆様方、そして門徒総代の方々および多数のご門徒の皆様方には数か月も前より準備のために多大なるご協力を頂きました。高岡教区五位組一同、皆々様におきましてはそのご尽力に心より感謝を申し上げます。

合掌

住　職　イ　ン　タ　ビ　ュ　ー

麻生谷　西光寺　養藤直哉　さん

①最近ハマっていることは？

慶讃法要に向けて本堂の修復や着色を自分の手で行う内に、内陣の塗りをライフワークにしたいと思うようになってきました。夢中になると時間を忘れてのめり込むので、予定の時刻にお参りに来なかったらすぐに電話してください。

②お坊さんになってからの失敗談

予定を書き忘れたり法事の日や時刻を間違えたりしたことがある。足がしびれているのに無理して立ち上がり、内陣で転倒したこともある。暗記しているはずの経文が突然思い出せなくなり、最初から読み直したこともある。多分、僧侶あるあるだと思います。

③新米僧侶の頃の自分に一言

他人に自分を大きく見せよう、良く見せようとする気持ちで努力するのではなく、中身を成長させるために努力するという謙虚な気持ちで進みなさいということと、煙草を止めなさいと言いたいです。

④教員時代の経験を踏まえ、子供に伝える時に心がけていることは何ですか？

まず聞く準備をさせること。そして、話す速度や声の大きさを調整し、平易な言葉で、同じ言葉を繰り返すことなく、順序立てて話すことも大切です。なによりも表情を見ながら話すことが大事ではないでしょうか。

仏　教　語　ア　ラ　カ　ル　ト

教願寺　前住職　岡西法英

その⑨　法事

法事は、仏事・法事・僧事の三事の一つです。仏事とは、仏陀・如来を供養すること、法事とは、経典・教法を供養すること、僧事とは、僧侶・信者を供養することです。供養とは、敬いを以て奉仕・接待することです。事という文字は仕えるという意味の字です。仏・法・僧の三宝を供養することは、仏教徒としての務めです。法要というのは仏教徒の務めとしての肝要、つまりはこの三事をあわせ行うことです。

まずは、仏前を荘厳します。掃除し、お飾りをし、供物をお供えします。これが仏の供養、仏事です。次には読経と説法が行われます。これが法の供養、法事です。次には参集の僧侶、信者たちを飲食でもてなします。これが僧事です。仏・法・僧の三宝を供養することが法要です。仏法を信ずる者の、肝要なる心掛けであるということです。

毎朝、仏壇の前に家族が集い、蝋燭を灯し、線香を炊き、正信偈を唱え、一緒に朝食を頂く。小規模ながら、立派に三宝供養の法要を行っていることになります。

報　恩　講　ご　案　内

各寺院の日程順に記載してあります。

石堤　法善寺
10月8日　朝9時半　昼13時半
法話　戸出六十歩
林　要昭　師

赤丸　性宗寺
10月11日　昼14時
法話　射水市市井
公文名　眞　師

四日市　浄明寺
10月14日　朝9時半
10月15日　朝9時半
法話　高岡市内島
※14日は永代祠堂経法要
岡西　法英　師

辻　西福寺
10月16日　朝9時半　昼13時半
法話　高岡市伏木
※昼座は永代祠堂経法要
山名　一徳　師

中保　善教寺
10月16日　昼13時半
法話　高岡市佐加野
磯原　孝雄　師

立野　永念寺
10月19日　朝9時半
法話　未定

三日市　光源寺
10月22日　朝9時半　昼13時半
法話　高岡市佐加野
磯原　孝雄　師

佐加野　光明寺
10月27日　昼13時半　夜19時
10月28日　朝9時半
法話　高岡市内島
岡西　法英　師

内島　教願寺
10月30日　昼13時半
10月31日　朝9時半
法話　高岡市佐加野
磯原　孝雄　師

石堤　長光寺
11月1日　朝9時半　昼13時半
11月2日　朝9時半　昼13時半
法話　氷見市布施
圓山　望　師

笹川　廣済寺
11月3日　昼14時
11月5日　朝9時半　昼13時半
11月6日　朝9時半
法話　高岡市伏木
山名　一徳　師

麻生谷　西光寺
11月7日　朝9時半　昼13時半
11月8日　朝9時半　昼13時半
法話　氷見市脇
寺西　良夫　師

上向田　浄永寺
11月12日　朝9時半　昼13時半
法話　高岡市笹川
福田　慶隆　師

山岸　珉照寺
11月16日　昼13時半
11月17日　朝9時半
法話　氷見市泉
伯水　永雄　師

舞谷　永賢寺
11月23日　朝9時半
法話　高岡市内島
岡西　好持　師

本保　本正寺
休止

詳細は各寺院にお問い合わせください。

五位組夏休み子ども大会　石堤　長光寺　織田隆夫

令和7年「第24回五位組夏休み子ども大会」が開催されました。この大会は五位組寺院16ヶ寺および五位組門徒総代会との共同で開催されております。現在、五位・福岡地区の小学校は統廃合され五位小学校と福岡小学校の2校だけと少なくなりましたが、当日は40数名の子どもたちが元気一杯に参加してくれました。

この大会は今年で24回を迎え、第1回は今から26年前にさかのぼります。平成10（１９９８）年に浄土真宗本願寺派では「蓮如上人五〇〇回遠忌法要」を盛大に厳修し、五位組でも四百人近くの人たちが本願寺にお参りいたしました。前年度秋にお待ち受け法要を開催し、それを機に当時の組長養藤了文氏（麻生谷西光寺）の「次世代にお念仏を」の願いから始まりました。阪神淡路大震災（１９９５年1月17日）から3年後でした。

即如前門主は当時のご親教のなかで「すべての方に、ご本尊の前で、いのちのあり方を顧み、その大切さを受け止めていただきたいのです。かたち無しに、現代の子や孫にお念仏を伝えることは簡単ではありません。」と次世代への私たちの責任は何かと問いかけておられます。

第1回に参加した子供たちはもう40才前後です。いつの日か参加した子供たちが、お念仏とともに、いのちのつながりを実感し、しっかりと、そして、自由にのびのびと生きていけることを願ってやみません。

大人気！野菜のクイズ！

子ども達と野菜を調理♪

被災地の能登へ支援米を届けよう！

昨年に引き続き、今年も輪島市門前町（仮設住宅等）へ富山の新米をお届けしたく思います。昨年はご協力いただいた新米（1・2トン）を一軒ずつ直接お配りさせていただきました。何卒ご支援のほど、宜しくお願い致します。

受付期間
10月27日(月)～31日(金)
午前9時半～午後5時
※31日は午後3時で終了

受付場所
高岡教区教務所
（高岡市東上関446）
TEL 0766―22―0887

編集後記

五位組としての大法要が実に15年ぶりに勤まりました。前回は「親鸞聖人七五〇回大遠忌お待ち受け法要」として2010年に行われています。どちらのご縁にもたくさんの方がお参りくださり、大変ありがたいことでした。

さて、この『五位組だより』も今は第31号を迎えましたが、実は第1号発行が先の大法要の直後なのです。当時の紙面を見返すと、懐かしい記憶が蘇り、15年という月日の長さを感じずにはいられません。

たくさんの方にお世話になり、支えられながら、そして引き継がれながら、今も『五位組だより』は続いています。どうかこれからも宜しくお願い致します。

五位組だより　第31号　2025年（令和7年10月13日）
発行　五位組　／　編集・制作　五位組門徒推進員協議会